

氷河・雪渓・流動モデル

山口 悟（北大低温研）

1. はじめに

最初の研究対象とした“山岳雪氷体”は、大雪山の“多年性雪渓”であった。そのときに「日本の山にも夏にとけ残らない雪があるんだ!!!」と感動するとともに「氷期には日本にも氷河が存在した」ということを知った（今考えるとなんて無知だったんだろう）。その後、ヒマラヤ・カムチャツカ・パタゴニアと本物の氷河を見る機会があり、また何度か“地理屋”とフィールドをともにし、“氷期に日本に存在した氷河”の話の聞いているうちにいくつかの疑問が沸いてきた。というのは、自分の経験や勉強から構築した“氷河”という概念に対して、“氷期に日本に存在した氷河”の規模、氷厚等のスケールがあまりにもかけ離れていたからである。その後学会等で地理屋に会う機会があるたびに「本当に日本にあった氷河って流動していたんですか？」、また「地理屋は、氷期の日本の氷河（自分が再現した氷河）に対して具体的にどんなイメージを持っているんですか？」と問うようになった。

今回の比較氷河にあたり、“地理屋に問うばかりではなく”一雪氷屋“の立場から日本の氷河についてなにか言えないか？”と考えていたところ長谷川さんの好意からデータを使わせていただけることになった。そこで今回“氷期の日本の氷河”と“多年性雪渓”に関する以下の問題（普段私が常々考えている問題）

<氷期の日本の氷河に関する疑問>

- .流動していたか
- .寒冷氷河であったか温暖氷河であったか
- .規模が小さいのに安定していたのか？
- .氷体形成過程

<多年性雪渓に関する疑問>

- .多年性雪渓は氷河になるのか（多年性雪渓と氷河との違い）

に関して“一人の雪氷屋”として普段われわれが使っている“手法・考え方”を用いて研究・考察をしたいと思う。